



おおぞら

第204号

2021年9月1日発行

発行責任者 荻野和功

編集者 木部哲也

<http://www.seirei.or.jp/mikatahara/oozora/>

「新型コロナウイルス 集団感染の対応と課題 （北海道療育園の事例に学ぶ）」

事務長 安達 広

§はじめに

令和3年5月に公益社団法人日本重症心身障害福祉協会が主催する全国施設協議会が開催されました。

この会は「重症心身障害児者施設の運営上の諸問題について協議を行い、もって重症心身障害児者福祉の向上を図ることを目的とする」とされ、厚生労働省が後援する協議会です。北海道から沖縄まで126施設が参加するこの会も、昨今の時節柄、Web配信で開催されました。行政説明と報告事項を除けば、主なプログラムは特別講演とシンポジウムなのですが、その全てが新型コロナウイルス感染症に関するものでした。

今回のシンポジウムのテーマは「コロナ禍の経験を活かした支援の継続について」でした。シンポジストの発表の中でも北海道療育園の林時伸園長が報告された「新型コロナウイルス集

§ 団感染の対応とその課題

と題されたレポートは事実裏付けされた大変心に残る報告でした。

今回林園長に直接連絡を取らせていただき、快くご許可を頂くことができましたので、その報告内容をおおぞら通信でもご紹介したいと思えます。

§ 北海道療養園について

北海道療養園は非常に高名な施設ですので、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、まずは園の概要を紹介いたします。

昭和44年ポリオ後遺症の療育施設として開設され、令和2年には開園50周年を迎えられました。北海道旭川市中心部から北に10kmに位置し、3500坪の広大な敷地に6つの療育棟を有する336床の施設です。

入所されている方333名の年齢は2〜79歳（平均年齢47.6歳）で、57.4%の方が寝たきりです。医療処置は人工呼吸器使用の方が47名、気管切開が54名、

経管栄養が128名で点滴や常時吸引が必要な方も多く、胃瘻処置の方、血液透析の方など濃厚な医療を必要とされる入所者の方も多数いらっしゃる施設です。

§ レポートをご紹介したい理由

レポートは新型コロナウイルスの集団感染に対する多大なる支援への感謝と利用者、職員、在宅の利用者、そしてその家族に対する健康被害やこころの問題に対する多くの負担への謝罪から始まります。

そして、「当園が経験したことを共有することで、新型コロナウイルス感染症から施設の機能を守り、重症心身障害児者への支援が途切れることなく提供されるための工夫や方策について、一緒に考えることができれば幸いです」と記されています。

この一文が今回のおおぞら通信への掲載を後押ししました。新型コロナウイルスへの対応はこの1年間もおおぞら療育センターでも最重要課題として検討し続けてきたものです。北海道療養園の経験を共有することは、きっと多くの気づきを私たちにもたらしていた

§ 感染の経緯

北海道療養園に一人目の陽性患者が発生した時点（令和2年11月最終週）で旭川市の市中は人口10万人当たりの新規感染者数が67名でした。国が定める最も深刻なステージ4（爆発的な感染拡大）の指標が人口10万人あたりの新規感染者数25名であることを考慮すると、非常に深刻な感染状況であったことがわかります。

11月30日に1人目の職員の方の陽性が判明し、翌日12月1日には利用者15名、職員8名、計23名の陽性が判明しました。そこで旭川市内8番目のクラスター認定がされたのですが、全員の方が無症状だったそうです。最初の陽性患者判明から3日目となる12月2日には旭川市新型コロナウイルス感染症現地対策本部が設置されましたから、対応としてはかなり迅速であったことが想像されます。しかし、その12月2日には渡り廊下でつながった別の療育課（別棟）でも1名の陽性が判明します。その後、症

状を有する利用者、職員が出始め、発生7日目には追加で22名が陽性と判明します。発生9日目には国で災害認定とされ、自衛隊が派遣されます。11日目には利用者23名、職員2名の陽性も判明します。

この時点でクラスターの発生した療養課は職員の8割が感染、現場の離脱を余儀なくされたが、内部の助勤者、外部の支援者、自衛隊看護官の応援で窮地を脱することができたそうです。

最終的に発生64日目となる2月2日に旭川保健所からクラスター終息が宣言されるまで、利用者105名、職員71名の176名の陽性が判明しました。利用者陽性105名の内訳は死亡0、重症0、搬送0、中等症5名で症状は軽微だったそうです。職員は医療機関への入院が14名いたものの、全員職場に復帰をされたそうです。

§ 重傷者が出なかった要因

重傷者が出なかった要因としてあげられていたのが、以下の点です。

①利用者をよく知るス

タッフが看護・介護を行ったことにより状態の変化に早く気づき、対応できた。

②転院しなかったことにより、慣れた環境で過ごすことができ、利用者の安心、状態の安定につながった。

③転院しなかったことにより重症児者の看護・介護になれていないことから生じる様々な不利益が及ばずです。④普段から合併症の治療や日常の看護・介護が適切であったため、運動機能・呼吸機能などが保たれ、感染しても余力があったのかもしれない。これは、平時から動ける人は動かし、体位変換を行う、腹臥位をとる、など積極的に実施することが有効。

レポートでは感染経路や感染拡大の要因にも触れられています。しかし、経路は最終的には確定しきれていないようですし、拡大要因は建物の構造などそれぞれの施設特有の課題もあるかもしれません。

一方、重症者が出なかった要因に関しては普段からの看護・介護の質が大きく影響していることが読み取

れます。このシンポジウムの中でも「得られたこと、わかったこと」として、「利用者一人の重傷者も出さなかったことは、自分たちが提供している療育は正しかった。」と報告されています。

§ 支援を継続していくために

このレポートの最終章は「重症児者への支援を継続するために」と題されています。

その①は「ウイルスを持ち込まない」として、平時の感染対策の徹底、職員の感染予防に対する「意識の醸成」などとされています。ここでも、まずは平時の体制から始まります。

②として「広げない」。軽微な症状を見逃さず、PCR検査を実施する。複数の病棟に入る職種の棟の移動を制限。共有スペース（休憩室、更衣室、食堂）での対策の徹底・距離をとる、いつでもマスク、環境の消毒、孤食、黙食。

職員に負荷がかかることも多いですが、重症児者への支援を継続して行くためには必要です。

③「早期の収束を目指す」

では前述の「平時の適切な合併症管理、療育の提供」が上げられています。

④「入所部門と外来部門を分ける」⑤「専門家と連携する・相談、研修、支援」⑥福祉施設であっても感染対策を躊躇しない」と続きます。

新型コロナウイルス感染拡大は非常事態ではありませんが、やはり平時からの看護・介護が大切であることは改めて心に留めておきたいと感じました。

§ おわりに

レポートは「まとめに代えて」と締めくくられています。

・この度のことで、すべての利用者と職員、そして家族が疲弊し傷つきました。

・失うものも多かったが、一方で北海道療育園が地域や多くの人に愛されていることがわかりました。

・私は今回の経験は自らを反省し、より良い施設になるために与えられた試練と受け止めています。

・重症児者の命を守り、

より良い暮らしを提供し、命の終わりを支えるという、当園の使命を果たすことができるよう再起を果たしたいと思います。

・そのことがみなさんへの恩返しになると思っています。

1番目の項目にあるように新型コロナウイルスの感染拡大には勝者はいません。すべての方が疲弊し、傷つきます。そして施設の使命を果たすことができなくなりました。職員も利用者もご家族も力を合わせてこの非常事態を乗り越えていかなければなりません。

そして、なによりも「平時の」看護、介護が重要で、様々な困難に立ち向かう基礎となるということを再認識し、私たちがおおぞら療育センターの看護・介護を自信持って進めるべきであると改めて強く感じる北海道療育園のレポートでした。

末文となりましたが、快くおおぞら通信での紹介をご許可いただいた北海道療育園の林園長のご厚意に重ねて感謝します。

横地分類

「移動機能」、「知的発達」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

〈知的発達〉

E6	E5	E4	E3	E2	E1	簡単な計算可
D6	D5	D4	D3	D2	D1	簡単な文字・数字の理解可
C6	C5	C4	C3	C2	C1	簡単な色・数の理解可
B6	B5	B4	B3	B2	B1	簡単な言語理解可
A6	A5	A4	A3	A2	A1	言語理解不可

〈特記事項〉

- C: 有意な眼瞼運動なし
- B: 盲
- D: 難聴
- U: 両上肢機能全廃
- TLS: 完全閉じ込め状態

〈移動機能〉

戸外歩行可	室内歩行可	室内移動可	座位保持可	寝返り可	寝返り不可
-------	-------	-------	-------	------	-------

だいちの

日常活動

高橋 義孝

Aさん(横地分類B6)は、職員の動きや声、テレビから聞こえてくる音楽や言葉をよく聞いています。

だいちのリビング内で、他の利用者と歌いかけの活動を行っていました。1曲を歌い終えて次の曲を歌いかけようとすると、反対側のリビングにいたAさんから「チャチャチャチャ

チャー」と、それまで歌っていた曲を口ずさんでいる声が聞こえてきました。壁で仕切られて職員の姿は見えなくても、微かに聞こえてくる歌声を聞いていたようにうでした。それは童謡や唱歌など、以前から耳にしている聞き馴染みのあるような曲ではなく、職員でも知らない人がいたような今時の歌謡曲で、サビの部分だけではなく所々ではあるが、歌い始めから口ずさんでいました。職員の歌に合わせるように歌っているわ

けではなく、数回聴いただけでメロディを覚えて口ずさんでいたようでした。活動が終わった後も時々鼻歌のように歌っていて、「さっき歌っていた曲を覚えて歌っているの？」と声をかけると、照れているような得意気のような表情をしていました。

職員が何気なく鼻歌を歌っていると、一緒に歌うのではなく、職員が歌っている次のパートを職員より先に歌い始めることもありま。職員がAさんが歌っていることに気が付くと表情を緩めて、そこからはデュエットをするように交互に歌い出し、職員の歌を聴き自分が歌う間を取りながら楽しそうに歌っていました。

生きがい活動では、語りかけの中のリズムカルなフレーズを聞いてリズムを取ったり、職員が描くペンの動きを見て、動きの速さに合わせるように身体を動かしてリズムを感じていました。

〈べりとぐら〉という本を語りかけしていると、語りの部分は職員の顔をじっと



見ながら聞いていて、「ぐりぐらぐりぐら」とリズムカルなフレーズや、「こむぎこ、ばたー」と短いフレーズがテンポよく続く場面になると表情を緩ませ、リズムにのるように頭を前後に動かしていました。〈こよみもだち〉という本では、「とんとんとん、あそぼじゃないか、〇〇さん」というリズムカルなフレーズが繰り返し出てきます。「とんとんとん」のフレーズになると、フレーズに合わせるように指先でトントントンとテーブルを叩いています。「とんとんとん」という声の響きと、テーブルを叩く音の響きを同じリズムとして、自然と感じ取っているようでした。

一筆描きで星や花、渦巻きなどをゆっくりと描いていくと、覗き込むようにしてじっと見えています。職員が途中で速く描いたり、ゆっくり描いたりと速さを変えながら描き始めると表情を緩め、速さに合わせるように身体を動かし、リズムを感じながら楽しそうに見ているようでした。渦巻きを描いていき、その周りを縁取るように丸をいくつも描いていくと、渦巻きを描いている時は線の動きをじっと見ていて、周りに丸を描き始めると表情を緩め、職員の描く丸の動きに合わせてるように、頭を小刻みに動かしリズムを取っていました。聞こえてくる音や声をリズムとして捉えるだけではなく、動きを見てその動きからリズムを感じ取って楽しんでいるようでした。



園内理髪 について

鈴木 智子

地域の5つの美容院や理容室の方にそれぞれ月に1〜2回ほど来ていただき、入所利用者の理髪を行っています。美容師さん、理容師さんに施設に来ていただくことで、利用者はいつも過ごしている環境で髪を切ることができず。何か問題が起きたときにも現場職員がすぐに対応することができません。現在、新型コロナウイルス感染症対策で、ご家族と外出して美容院に行ったり面会時にご家族が髪を切ったりすることができないため、多くの利用者が園内理髪を利用しています。

ご家族の希望、頭皮の状態、快適に過ごすには短い方がよいか結べるくらいの長さがよいかなどを考え、美容師さん、理容師さんと話しながら髪型を決めています。ご家族の希望があったときや髪の伸び具合をみて、理髪の予定を組んでいます。理髪後は入浴できるようにしています。

利用者によって安楽な姿勢が異なるため、椅子や車椅子に座る方、ベッドや車椅子に寝た姿勢で行う方、職員の

抱っこで行う方などさまざまです。寝た姿勢で行う場合、顔や体の向きを途中で変えながら行う必要があります。体に力が入ったり手や顔の動きを止めていられなかったりする方や顔や頭を触られるのが苦手な方もいます。安全で無理のない姿勢で行えるように、枕の当て方を工夫しています。また、2〜3人の職員で体を支えることもありま



の音が苦手な利用者には、施術の前にバリカンのスイッチを入れて声をかけ、バリカンの音に慣れてから始めてください。食べ物や音楽などその利用者が好みそうな話題で声をかけたり、笑顔がみられたときには喜んでくださったりします。

今後利用者もリラックスして受けられる理髪を心がけていきたいです。

異動職員紹介

1号館・村松妃奈子

6月より聖隷三方原病院から異動になりました村松妃奈子です。

病棟での経験を活かしながら丁寧なケアを心がけ、利用者や家族との関わりを大切にしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

家族の会よりメッセージをいただきました

家族の会の皆さんより、職員へメッセージをいただきました。コロナ禍での対策に感謝の言葉や身体に気を付けて頑張ってください等、数々の心温まるメッセージをありがとうございました。職員一同、今後とも感染対策に取り組んでまいります。



苦情解決委員会

2021年1月〜3月

公表する苦情はありませんでした。

	5月	6月
ショートステイ利用者数 (延べ利用日数)	57人 (306日)	49人 (254日)
放課後デイ利用者数 (延べ利用日数)	28人 (96日)	30人 (99日)
実習者数 (グループ数)	4人 (2グループ)	0人 (0グループ)